

◆第183回国会・参議院本会議における代表質問／答弁概要

幼児教育の無償化実現へ

安倍首相 国会で答弁

「幼児教育の無償化、検討を行う」

「幼児教育は、生涯にわたる人間形成の基礎を培う重要な時期」

第183回国会・参議院本会議において、1月31日（木）中曽根弘文参議院議員、2月1日（金）橋本聖子参議院議員が「幼児教育の無償化」についての代表質問を行い、安倍晋三首相から「検討を行っていく」との答弁がありました（代表質問及び答弁概要は、次のとおりです）

今後の委員会審議等が注目されます。

●質問概要／中曽根弘文参議院議員

我々自由民主党がかねてから主張してきた、幼児教育の無償化について伺います。保育園や幼稚園での幼児教育の充実は、その後の人格形成にとって非常に有益です。しかし、この世代の子どもを持つ親は、まだ若く、一般的に収入も多くありません。教育費を支援することにより、もう一人子供を持とうと考える人が増えることにつながり、少子化対策としても有効と考えます。

我が党の今回の選挙公約にも、「幼稚園や保育所、認定こども園、家庭などでの子育て支援を充実させます。幼児教育の無償化に取り組みます。」と明記しています。

海外では、イギリスは3歳児からの幼児教育を無償化しており、フランスでも事実上無償化しています。韓国でも3歳から5歳児の幼児教育を段階的に無償化することを法律で

決めています。OECDも、日本に対して、子ども手当よりも幼児教育・保育に投資すべきだと提言しています。限られた財源ではありますが、費用対効果も大きく、何よりも「未来への投資」という意義ある幼児教育の無償化は是非行うべきと考えます。

政府においても検討を始めるやに聞いていますが、総理のお考えを伺います。

●質問概要／橋本聖子参議院議員

これだけ少子化が進んでいる中で、毎年保育所を造り続けているのに、いつまでも待機児童はゼロになりません。もっと保育所を増やすべきだという意見もあります。

しかし、0歳から2歳までは、親子の時間をできるだけ多く取れるよう、家庭での子育てを支援し、3歳以上は、無償での幼児教育を提供する。これを、家庭教育・幼児教育の基本的なビジョンとすべきだと私は考えます。

幼児教育の無償化は、我が党の公約でもあり、昨日、中曽根議員会長も質問されました。財政的な問題から、すぐに完全な無償化は難しいのは確かです。それでも、まずは第3子から無償化する、5歳児を無償化するなど、段階的に進めていくべきだと考えますが、いかがでしょうか。政府の方針を伺います。

●答弁概要／安倍首相

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基盤を培う重要な時期であり、この時期に質の高い幼児教育を保障することは、極めて重要であります。

我が党の今回の選挙公約にも、「幼稚園や保育所、認定こども園、家庭などでの子育て支援を充実させます。幼児教育の無償化に取り組みます。」と明記しており、幼児教育の無償化については、関係府省の連携のもと、ご指摘の点も含め、子ども・子育て支援新制度との関係、財源確保の観点等も踏まえ検討を行ってまいります。

※1月31日（木）・2月1日（金）の両日とも同様の答弁が行われました。

[今号は2枚]